日本ラチーノ学院卒業式

平成 27 年 12 月 28 日
引地正之（海外事情研究会 OB）
学移連 OB 会西日本支部支部長

平成 27 年度日本ラチーノ学院の卒業式は、12 月 19 日（土）午後 3 時から滋賀県東近江市山上町永源寺コミュニティーセンターで挙行されました。

卒業式には、盛装した幼稚園・中学部・高等部の卒業生 20 名を始め、学院教職員・理事・来賓・保護者・地域ボランティア協力者など約 200 名が出席しました。式は、ラチーノ学院タチアナ亀谷副校長の進行により、出席者全員起立して日本・ブラジル両国国歌斉唱に続き、中川美子理事長の挨拶、小椋正清東近江市長の祝辞―ラチーノ学院の東近江市への移転の歓迎の言葉や卒業生へのお祝い・激励の言葉―を述べられました。カイオ上村学院長は式辞で、卒業のお祝いと共に他人を思いやり社会への貢献を心がけ人生の目標をもって頑張って欲しいと卒業生に激励の言葉を述べられました。



最初に幼稚園卒園児 6 名一人一人に卒業証書が手渡された後、卒園児の遊戯が披露され出席者の喝采　を浴びました。その後、中等部卒業生 6 名、高等部 8 名の卒業生一人一人が壇上に上がり、教職員と挨拶の抱擁を行った後、カイオ上村学院長から卒業証書が手渡され、中等部・高等部卒業生の代表が感謝の言葉を述べ、特に高等部卒業生のアイコ・ヒガ・ドゥアルテさんがポルトガル語と上手な日本語で謝恩の辞を述べました。そして、卒業生全員が帽子を振り上げた後、全員が歌唱を歌い式は終了しました。



今年 1 月にラチーノ学院は近江八幡市から東近江市甲津畑町に移転して初めての卒業式

であり、東近江市当局、地元自治会及び地域住民のボランティアの協力を得て、同学院が地域に根付きつつある印象を受けました。



今年度同学院高等部の卒業生 8 人のうち、2 人が京都外国語専門学校への進学を希望しており、他の 6 人は滋賀県下での就職を希望しているそうですが、来年 4 月の新学期までには、さらに 2～3 人の卒業生が京都外国語専門学校への進学を希望する可能性があるとの校長のお話でした。





今年の卒業式には、学移連 OB 会西日本支部から引地西日本支部支部長、谷村幹事（ラチーノ学院理事・東京農大)、夏目書記・幹事（関西学院大）が出席。京都外大卒業生、北田校友会幹事（ラチーノ学院理事)、及び湯口校友会大阪支部長が出席しました。

学移連 OB 会西日本支部は、4 年前からラチーノ学院生徒への日本語授業補助活動を行っており、同学院生徒への支援の輪はだんだん広がり、特に京都外国語大学ブラジルポルトガル語学科学生を中心としたヴィンクロ・ジ・ラチーノが学院生徒への進路指導・交流会を行うなど活発な活動を続け、又地域住民のボランティア参加者も増えて来ております。

又、高等部卒業生が毎年京都外国語専門学校へ進学しており、「上級学校へ進学して、日本語を勉強したい」と言う、生徒の夢が実現して行くのを見て嬉しく思っております。今後とも、地域住民・学生と連携を保ちつつこのような活動を幅広く行っていく所存です。

―完―